特集に当って

松田　寿子

戦後の復興から40年，欧米先進国に追い着き・追い越せとばかり所得倍増論をかかげて突っ走ってきた日本も，今や黒字減らしのやり玉にあげられるまでの経済大国にのしあがった．兎小屋に住んでいるなどと言われながらも，平均的日本人の暮しは，どんな僻地に在っても1軒に1台のテレビを持ち，美味しいものを食べ，きちんとした身なりでこぎれいに暮し，中流意識に支えられて落ち着いたものである．

昨今では喉もと過ぎれば暑さも何とやらで，個性化時代・いや飽衣飽食だのと批判がましい世相となってしまった．日本人特有の勤勉さで，鎖国下の抑圧にあっても勉学にはげみ，海外文化を吸収するのに躍起となって荒海を渡った努力は，海外旅行が日常化した現代からみると想像を絶するものであったに違いない．

航空技術・通信手段の発達した今日では，欧米の主要都市のどこにいっても日本人の旅行者を見かけ，また観光日本の名所には外国人を見かけるし，世界各国の情勢がテレビを通じて家庭の茶の間に飛び込んでくる．こうした日常的な環境母集団は，企業環境においても，日本企業の海外への進出・外国企業の日本への参入を何らかの分布構成で包含しているに相違ない．しかも，経済力・技術力に裏打ちされた自信は，ともすると外国の模倣や言いなりになるという追従型から，自己のアイデンティティーを確立し，積極的な攻勢に出るという姿勢への変化は容易に予想されるものである．

本特集号ではこのような状況を想定して，いわゆる外資系企業が日本への参入に当って日本側のマネジメントがどのように受け止め，どのような戦略で現地の同化をはかってきたかという観点から，日本アイ・ビー・エム社の椎名社長にトップの視点をお願いした．

一方，日本で生まれ育った企業が，優秀な技術力を生かし・どのような戦略をふまえて海外に進出していったか？　テクノロジーの先端をゆく情報産業分野から日本電気の西村氏・NTTの泉氏に，また，はやくから海外進出を果たし，技術移転に実績のあるプラント技術からは，日本プラント協会の北川氏にお願いした．

そして企業の国際化戦略はどのような考えにもとづいて展開されねばならないか？　以上の諸氏の実践派の立場から今度は理論派の立場へと目を転じて，ORにも詳しく，国際企業の実際にも精通しておられる唐津氏に，そのご卓見をお伺いすることにしたものである．

国際企業とORとのかかわりは，一見飛躍があるように思われるかもしれないが，なにげない言動や決定のひとつひとつに，戦略に裏づけられた行動があらわれているものとして受け止められよう．別に論理的な表現や数式がなくても，読む方がそれをOR的に受けとめ，自分なりにORすることの楽しさもまた格別なものではなかろうか？異文化同士が接触して，なおかつ有機的に融合しあうには，種々の形態のメカニズムが存在するかもしれない．それらが目論見どおりにいくもの・そうでなく偶然うまくいった場合でも原因を究明することの興味はつきない．時流をOR的に読むことが読者諸兄の一興となれば幸いである．

日本アイ・ビー・エム㈱
〒107 港区赤坂1—12—32

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．